

⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑪公開特許公報(A)

昭54-79892

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 24 C 1/06

⑬記列番号 ⑭日本分類  
74 K 11

⑮庁内整理番号 ⑯公開 昭和54年(1979)6月26日  
6660-3C

⑰発明の数 1  
⑱審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑲要約  
⑳特許請求の範囲

⑳特 願 昭52-146141  
㉑出 願 昭52(1977)12月7日  
㉒発 明 者 経部光一  
川崎市幸区塚越1丁目7番地

東芝タンガロイ株式会社内  
㉓発 明 者 東方幸男  
川崎市幸区塚越1丁目7番地  
東芝タンガロイ株式会社内  
㉔出 願 人 東芝タンガロイ株式会社  
川崎市幸区塚越1丁目7番地

# 明 細 書

## 1 発明の名称

金属メッキ鋼板等のメッキ層除去方法

## 2 特許請求の範囲

通常鋼板に金属メッキ層等が被覆されている鋼板において、機械的に削り、メッキ層の一部を除去するにたり、60〜80メッシュの炭化珪板、0.0数等を30以上の圧力で吹付け加工処理することにより、鋼メッキ層の一部を除去したことを特徴とする金属メッキ鋼板等のメッキ層除去方法。

## 3 発明の詳細な説明

本発明は、金属メッキ鋼板等のメッキ層除去方法に關し、特に、金属鋼板にヤス、型などが渡らず、またその作業が簡単に行ない得るようにしたものである。

従来、この種の金属メッキ鋼板等は、メッキ層中に被覆される工程を終るため、金銭面にメッキ層を有するのが普通である。

しかし、用途によつては、片面のみあるいは、

一部分メッキ層を有しない鋼板も要求されることがある。これは、一般に鋼板に付着しているメッキ層は、一面にメッキ層を有する鋼板では鋼板部分のメッキ層除去作業として問題となつていゝものである。

そこで、本発明は、上述の点に鑑みおされたもので、金属鋼板に金属メッキ層等が被覆されている鋼板において、メッキ層の一部を除去するにあたり、60〜80メッシュの炭化珪板、0.0数等を30以上の圧力を吹付け加工処理することを内容とするものである。

以下、本発明要約メッキ鋼板等のメッキ層除去方法に對する一実施例について説明する。

金属メッキ鋼板は、一般に耐食性がよく、用途の定着性もよいため、種々の用途に適用されるが、溶接加工を伴ふ分野では、メッキ層が片面あればよい場合がある。しかし、従来のようなサンドペーパーによるメッキ層の除去作業では、目詰りから問題があり、また、ききかけによつてはヤスの問題がある。

特開第54-73882号

これに対し、本発明では、炭化繊維、 $\text{SiC}$ 、ガラス繊維等の炭子を軟化を加工することによりメタケ層の除去をするものである。したがってメタケ層の片面全面あるいは、その一部を融解ししかも簡単に除去できるものである。

この場合、一部除去のときは、除去しない部分をテープ等でマスクングすることにより得られる。また、炭子の大きさは、メタケ層の条件により異なるが、一般には $50 \sim 80 \mu\text{m}$ のものが適当で、その出力は、 $5 \text{ W}$ 以上一般には、 $5 \sim 10 \text{ W}$ の範囲から選択される。

なお、片面全面を除去する場合には、繊維のメタケライン中に混入することも可能である。これは、片面のみのメタケ作業を求めた場合そのメタケ層に混入する炭子の融解化において炭子の負担が大きい本発明による除去工程を繰り返した方がより経済的であること、また炭子にも磨削ヤズ、圧等が施されまいことからである。

以上説明したように、本発明の炭子メタケ剥離等のメタケ層除去方法は、ノズルから吹付けらるよ

うにすれば簡単に実施できるものであり、特にメタケ剥離のメタケライン中にも簡単に炭子として混入することができることから、工業的価値が大きいという利点を得る。

発明者 東京ダンロイ株式会社